

1. 本校の研究

主 題

自ら判断し、自分の命を自分で守ることができる子どもの育成
～副読本の活用を中心にした防災教育の推進を通して～

目指す子ども像

- 【自助】 自分の身は自分で守る
- 【共助】 助け合い・共に生きる
- 【公助】 公の支援と備え



石巻市立鮎川小学校の防災教育！

3. 防災の時間は知識重視

防災の時間指導案（略案）

NO.9

学 年	第5・6学年	実施日	平成28年2月15日（月）	指導時間	10分
題材名	第5章3. 災害時の情報収集（P46～47）				
目標	災害時には、震源地や津波に関する情報を早く入手することがその後の対応に役立つことを理解する。また、伝言ダイヤルが安否確認の方法に有効であることを理解する。【知識】				
副読本の活用	副読本P46のグラフを提示し、災害発生時に情報手段としてラジオが有効であることをとらえさせると共に、P47の伝言ダイヤルの資料を使い、使用方法について理解させる。				
準備物	防災ノート 手回し充電式のラジオ				
指導過程	<div> <div>主な学習活動</div> <div>教師の実施と留意点</div> </div> <p>1 地震が起きたときの震源の情報をどうもどこから入手しているか確かめる。</p> <p>○テレビやインターネットで情報を収集していることを確かめ、大規模災害により停電が発生し、テレビやインターネットが使用できない時は、どうすべきか本時の課題について考える必要感を高める。</p> <p>2 災害が起きた時に、どんな情報をどのような手段で入手すべきかについて考える。 （1）どんな情報を入手する必要があるか考える。</p> <p>○副読本P46の資料を参考に、今いる場所の安全が確保されているのかについての情報を得ることが大切であることを伝えさせる。 ・津波は来るのか ・どこに避難すればいいのか。 ・今いる場所は安全なのか。 ○東日本大震災時の担任の経験談を話し、情報入手の手続きを確認し、おおくの大切なことを伝えて指導する。手回しの充電式のラジオの活用について、災害時に活用できるものを用意することの大切さを理解させる。</p> <p>（2）どんな方法で入手できるのか。</p> <p>○副読本のP46のグラフをもとに、どのような情報手段が有効であったかを考えさせてラジオの有用性に気付かせる。 ○停電時はラジオもコンセントではなく乾電池で使える状態であればならないことや情報入手の手続きを確認し、おおくの大切なことを伝えて指導する。手回しの充電式のラジオの活用について、災害時に活用できるものを用意することの大切さを理解させる。</p>				

毎月11日前後の
業前の時間に10分
「防災の時間」
を設定しています。
副読本を活用しての
知識を身につける時間
です。防災ノート
に感想を書き、学び
を振り返られるように
しています。

2. みやぎ防災教育副読本を活用した年間指導計画

防災教育年間指導計画 1・2年生

低・中・高学年に分け作成

目指す子ども像

【自助】～自分の身は自分で守る～ （知）学校災害発生時に自分の身の安全を確保する （行）避難場所や避難経路を把握する （行）避難場所や避難経路を把握する	【共助】～助け合い・共に生きる～ （知）地震発生時の安全な行動や避難場所を把握する （行）避難場所や避難経路を把握する	【公助】～公の支援と備え～ （知）学校にある防災の設備について知っている （行）避難場所や避難経路を把握する
---	---	--

防災教育年間指導計画 3・4年生

目指す子ども像

【自助】～自分の身は自分で守る～ （知）地震発生時の安全な行動や避難場所を把握する （行）避難場所や避難経路を把握する	【共助】～助け合い・共に生きる～ （知）自分たちが助ける人たちのためにできることを知っている （行）自分たちが助ける人たちのためにできることを知っている	【公助】～公の支援と備え～ （知）地震発生時の安全な行動や避難場所を把握する （行）避難場所や避難経路を把握する
---	--	--

防災教育年間指導計画 5・6年生

目指す子ども像

【自助】～自分の身は自分で守る～ （知）地震発生時の安全な行動や避難場所を把握する （行）避難場所や避難経路を把握する	【共助】～助け合い・共に生きる～ （知）自分たちが助ける人たちのためにできることを知っている （行）自分たちが助ける人たちのためにできることを知っている	【公助】～公の支援と備え～ （知）地震発生時の安全な行動や避難場所を把握する （行）避難場所や避難経路を把握する
---	--	--

4. 教科の防災教育は体験重視



逃げ地図作り



合同避難訓練・研修



引渡し訓練



遊び場所からの避難



下校時の避難訓練

仮設住宅の方や
地域の方・PTA・関
係機関・大学との
連携により、R山の
体験を行うことが
できました。